

意欲的に読み、話し合う力をつけるには どうしたらよいか

——読書会を意識した国語科授業のあり方——

西村 るり

はじめに

国語の授業を行うにあたり、筆者にとって長年の課題は生徒が自ら意欲的に授業に取り組むにはどうすればよいのかということだった。そのためには、まず生徒が自ら意欲的に文章を読み、自ら話し合う授業を意識しなければならぬと考えていた。

本年度（平成二十七年年度）、全国学校図書館協議会が主催する読書会コーディネーター養成講習会に参加する機会を得た。そのときの体験は筆者に読書会をもとにした国語科の授業の可能性を感じさせた。読書会形式で一冊の本をグループの人たちと読んでいくと意欲がわき、楽しかった。その読書会を無理なく中学校国語の授業に生かすために、いろいろな

面で工夫して授業を行った。その過程と結果をここに示したい。

一 研究主題

意欲的に読み、話し合う力をつけるにはどうしたらよいか
——読書会を意識した国語科授業のあり方——

二 主題設定の理由

近年、アクティブ・ラーニングに対する関心が高まっている。アクティブ・ラーニングとは、平成二十五年八月二十八日の中央審議会答申の用語集に「教師による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取

り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的な能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と書かれている。ここに書かれている考え方は、教師主導ではなく、生徒の意欲から出発した授業を行いたいという教師の願いと根を同じくするものであろう。筆者は自分の学習体験と授業実践の経験から、読書会を意識した授業を行えば、生徒たちが意欲的に文章を読み、意欲的に話し合いをするのではないかと考えてきた。そこで本年度、「読書会コーディネーター養成講習会」が熊本市で開催されたのを機に、その講習会に参加した。講師は、新潟大学の足立幸子准教授であった。足立先生の読書会はハーベイ・グニエルズ氏のリテラチャー・サークルのやり方を基にして行われた。基本的な方法を当日配布の資料を基に、要約して以下に載せる。

- ① 教師が子どもたちに読ませたい本を紹介する。
- ② 子どもたちは読みたい本を選び、同じ本を選んだ者としてグループを作る。
- ③ 子どもたちは、グループごとに読む範囲を決める。
- ④ 子どもたちは、自分の読む役割を決める。

表 1

<p>リテラチャー・サークルの基礎的な役割 どのグループにも置きたい役割</p> <p>コネクター（自分とのつながりを見つける） クエスチョナー（疑問を見つける） リテラリー・ルミナリー （優れた表現などに光を当てる）</p> <p>イラストレーター （目に浮かんだ情景などを絵・図にする）</p> <p>必要であれば加えたい役割</p> <p>サマライザー（要約をする） リサーチャー（作者、テーマなどを研究する） ワード・ウィザード／ボキャブラリー・エン リッチャー（特別な語を取り上げる） シーン・セッター／パッセージ・マスター （場面、段落の特徴をとらえる）</p>	<p>⑤ 子どもたちはそれぞれ、自分の役割で、グループで決めた範囲を読む。</p> <p>⑥ 役割に基づいて、グループで話し合う。</p> <p>⑦ ③④⑥を何回か繰り返し返して、一冊の本を読む。</p> <p>⑧ 子どもたちは、自分たちのグループで話し合ったことを、クラスに紹介する。</p>
---	---

以上が、読書会の流れである。この読書会形式で一冊の本をグループの人たちと読んでいくと意欲がわき、かつ楽しかった。一冊の本もわずかな時間で読破し、話し合いも活発だった。ここで大事なものは、リテラチャー・サークルの役割である。

その読書会のやり方をそのまま授業で行うのではなく、無理なく中学校の国語の授業として生かすためには、自分なりに、いろいろな面で工夫し、変化させて授業を行う必要があると考え、以下のように仮説を設定し、研究を行った。

三 研究の仮説

読書会を意識した授業をすれば、生徒たちは意欲的に文章を読み、話し合うようになる。

四 研究の構想

(一) 研究対象

研究の対象は、筆者の勤務校である熊本市立京陵中学校の生徒である。筆者が教科担任をしていた平成二十七年年度の一年生一クラスと二年生四クラスを対象に研究を行った。当時の熊本市立京陵中学校は一年生七クラス、二年生六クラス、

三年生七クラスの、規模としては熊本市内でも中規模から大規模校に属する学校であった。

一クラスは三十五人から三十七人であり、クラスによって差はあるものの、授業態度はおおむね落ち着いていた。ただ、生徒たちは授業に対してどちらかと言えば受身であり、意欲的に読むことに関して課題がある。国語の学力は熊本市の平均をやや上回っていた。

国語の授業の中でこれまでも班になって学習する機会は度々設けており、グループ学習には慣れている。男女混合班であり、班の人数は四人で人数が合わないときは三人や五人の場合もあった。

また、文学的文章の場合は、初読のあと、生徒一人一人が一番印象に残る一文となぜ印象に残ったかを発表する活動を続けている集団であった。印象に残る一文と本研究のクエスチョナーやリテラリー・ルミナリーの役割には重なる部分があった。

(二) 研究のおおまかな流れ

読書会を意識した授業は、次のように一年と二年で行った。今回の論文では、一次、二次、三次の中の主に二次について記述した。

一次 九月二十四日～十月一日

中学二年「字のない葉書」

二次 十月十五日～十月二十九日

中学一年「星の花が降るころに」

三次 十一月四日～十一月二十四日

中学一年「大人になれなかった弟たちに・・・」

(三) 実践研究の方法

ここでは、一次の実践を踏まえ、読書会のやり方を以下のように変化させて、実践を試みた。

① 教師が子どもたちに読ませたい本を紹介する。

↓教科書教材で、クラス全員で同じ文章を読む。

② 子どもたちは読みたい本を選び、同じ本を選んだ者どうしてグループを作る。

↓今までの国語の班でグループを作る。

③ 子どもたちは、グループごとに読む範囲を決める。

↓教科書教材の一つをそのまま全部読む。

④ 子どもたちは、自分の読む役割を決める。

↓役割は表1の中から、「疑問を見つける役」「目に浮かんだ情景などを絵・図にする役」、「優れた表現などに光を当てる」「要約をする役」「自分とのつながりを見つける役」に絞った。

⑤ 子どもたちはそれぞれ、自分の役割で、グループで決めた範囲を読む。

↓一つの教科書教材を自分の役割で読む。

⑥ 役割に基づいて、グループで話し合う。

↓変更なし

⑦ ③～⑥を何回か繰り返して、一冊の本を読む。

↓教科書教材なので、何回も繰り返さずに読み上げる。

⑧ 子どもたちは、自分たちのグループで話し合ったことを、クラスに紹介する。

↓各班の疑問とその班で考えた答えを発表し、クラス全体でまとめた疑問を各班で考え、意見交換を行う。

五 研究の実際

(一) 取り組みの流れ

一次の実践を二年生にやってみて、コネクターの役割が難しいということがわかったので、中学一年生に対して、読書会のやり方を以下のようにした。教材の「星の花が降るころに」は光村図書一年の教科書に載っているものである。

1時間目

① 教師が読書会のやり方を説明する。

② 教師が「星の花が降るころに」を範読する。

③ 生徒たちは班ごとに自分の読む役割を決める。班は基本的に四人だが、五人班もあったので、四つの役割と五人目

の役割を決める。

① つながりを見つける役（コネクター）

↓五人班の場合は一役

② 疑問をあげる役（クエスチョナー）↓一人一役

③ 優れた表現に光を当てる役（リテラリー・ルミナリー）

↓一人一役

④ イメージを絵や図にする役（イラストレーター）

↓一人一役

⑤ 短く要約する役（サマライザー）↓一人一役

2時間目

④ 子どもたちはそれぞれ、自分の役割で、「星の花が降るころに」を読み、各役割ごとのワークシートに記入する。

3時間目

⑤ 役割に基づいて、班内で話し合う。

⑥ 教師が各班の疑問をまとめ、ワークシートを作る。

4・5時間目

⑦ 教師が司会者となり、疑問を班で話し合いながらクラス全体で話し合う。

6時間目

⑧ 生徒は「星の花がふるころに」の物語の続きを書く。

⑨ 生徒は「星の花が降るころに」の感想と授業の感想を書く。

(二) 取り組みの実際

2時間目

で記入したワークシートを一班ごとに以下に載せる。

A班

クエスチョナー

読んでみて出てきた疑問

○なぜ戸部君は私にからんでくるのか。

○なぜ夏実は隣のクラスの子と私と同時に話しかけられたとき私から顔を背けたのか。

○なぜ戸部君は私のほうを見ていたのか。

○なぜ私は友達なんていないのに友達を探しているように下を眺めたのか。

○なぜ私は学校からの帰りに銀木犀のある公園に寄ったのか。
○なぜ銀木犀の花を土の上に落とした（捨てた）のか。

リテラリー・ルミナリー

① P 96の1行目

銀木犀………銀木犀のにおいや景色が表現できて、興味深かったから。

② P 93の2行目

夏実とは………夏実とすれちがったことや、約束をしていたことが書いてあって重要だと思ったから。

③ P 96の1行目

雪が降るように音もなく落ちてくるの所はとても表し方が上手だったから。

④ P 93の2行目

どきどき……少し気まずそうな様子がとても分かったから。

⑤ P 93の7行目

音のない……表し方が上手だったから。

サマライザー

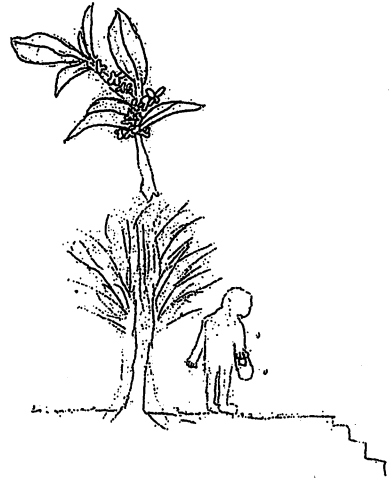
去年の秋の思い出を考えていたら、いつもふざけている戸部君がぶつかってきた。昼休みに入り、戸部君が塾のプリントでわからない所をきいてきた。なぜ戸部君はそうあるのか考えていると、夏実が見えて、ぎこちなく声をかけると同時に別の子ども声をかけて夏実はその子の方に行った。それを戸部君に見られた。そういうことが起きて悩んでいる話だ。

カギとなるポイントやできごと

・秋の思い出

・いつもふざけている戸部君がぶつかってきた。

イラストレーター



B班

クエスチヨナー

P 90の7行目

なぜ去年の秋のことを思い出したのか。

P 90の10行目

なぜ他の男子が戸部君を押ししたのか。

P 91の8～9行目

なぜとくいがわかったのか。なぜ夏実の他に友人がいないのか。

P 94の17行目

なぜ戸部君はサッカー部のみんなと仲がいいのに、部活動中は一人ですみっこでボールをみがいているのか。

「いいか、よく聞けよ・・・おまえはおれを意外とハンサムだと思ったことが―」にやりと笑った。「―あたかもしれない」

取り上げた理由

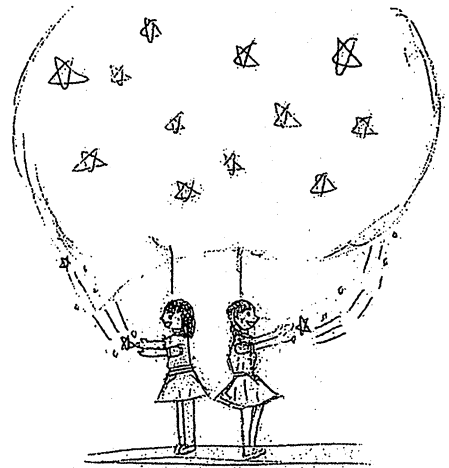
戸部君は、夏実のことをみて、おちこんでいる私をなぐさめているのかな? と思いました。ここがおもしろい部分だと思いました。

サマライザー

主人公「私」は、去年の秋まで夏実と仲がよかった。しかし、中学生になり、何度かの小さなすれ違いにより、互いに意地を張るようになり、別々に帰るようになった。その現状を変えようとした「私」だったが、失敗に終わり、その様子を見ていた戸部君に腹を立て、放課後戸部君を探していたら、一人でボールをみがいている戸部君に考えさせられ、戸部君と話した。その後、戸部君にはげまされ、自信をもつことができた。

カギとなるポイントやできごと

- ・ 去年の秋は仲がよかった。
- ・ 塾のプリントも「私」に聞いた



C班

クエスチヨナー

- ・ P 94 ～ 95 に出てくる魂とは汗のことなのか。
- ・ P 93 L 5 の夏実は私を無視しているような態度をとったのか。
- ・ P 96 L 11 のたぶんというのは、本当は悲しさと気付いてほしいのか。
- ・ 最後の私はもう夏実とはどういう関係でいたかったのか。
- ・ P 95 L 7 の輪郭が戻ってきたような感じがしたとはどんな意味なのか。

リテラリー・ルミナリー

P 90の1行目

そして雪が降るように音もなく落ちてくる

↓銀木犀の花がどのように落ちたかを表現しているからです。

P 93の7行目

音もないこま送りの映像を見ているように

↓夏実が目の前を通り過ぎるときのようなすを表現していたからです。

サマライザー

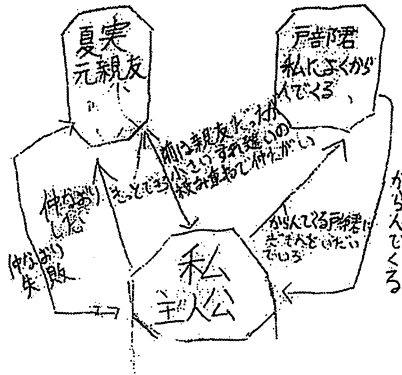
中学生になって私と親友の夏実はすれ違いした。私は仲直りをしようと思っっているが夏実は私を無視する。落ちこんだ私は帰りにサッカー部の練習の中でボールをみがいっている戸部君を見つける。戸部君が私に話しかけてきた。私は戸部君の話に笑った。帰りに公園に行つて掃除のおばさんと話し、元気が出た。私は銀木犀の木の下に星形の花をまいた。

カギとなるポイントやできごと

- ・中学生になって私と夏実はけんかした。
- ・私は夏実と仲直りしようと思っっている。
- ・夏実は私を無視した。私は落ちこんだ。
- ・帰るときサッカー部の中で戸部君を探した。

・戸部君と話した。(笑った)

・公園で掃除のおばさんと話して立ち直った。
イラストレーター



D班

クエスチョナー

- ・なぜ、戸部君は私にからんでくるのか。
 - ・なぜ私は友達に夏実の他には友達と呼びたい人はいないの
- に、友達を探しているふうにしてたのか。

リテラリー・ルミナリー

P 92 L 2 ~ L 93 L 8

取り上げた理由

私と夏実のことがよく書かれていて重要だと思ったから。

P 90 L 6 ~ P 91 L 13

私たちの日常でもよくあることで、このやりとりが自分自身にあてはまったから。

P 93 L 4 ~ L 7

お互い意識しあつて二人がとつた行動が心の中の気持ちに当てはまるから。

P 94 L 3 ~ L 4

言葉の表現のしかたが印象的だったから。

P 94 L 17 ~ P 95 L 3

戸部君の行動を見て、主人公の気持ちが晴れた部分だから。

P 97 L 16 ~ P 98 L 4

主人公のモヤモヤした気持ちが完全になくなった瞬間だから。

サマライザー

去年の秋、夏実と二人で銀木犀の下に立ち、花が散るのを見ていた。夏実とは中学生になつても親友でいようと約束したが、小さなすれ違いが重なるうちに別々に帰るようになった。休み時間に仲直りしようと話しかけたが、他の友達の方へ行つてしまった。帰りに銀木犀のある公園に寄り、木の下でまた花を拾う日がくるかもしれないと花を木の下に落とした。

カギとなるポイントやできごと

・夏実と私は春の間はいっしょに帰っていたが、小さなすれ違いや誤解が重なり、別々に帰るようになった。

↓ 中学に上がつてもずっと親友でいようと約束

・夏実と私が二人で銀木犀の木の下に立ち、花が落ちるのを見ていた。(去年の秋)

・戸部がぶつかり、宿題を聞かれた。

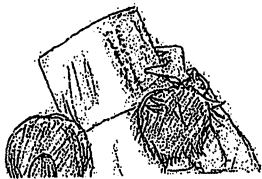
・休み時間に仲直りしようとしたが、他の友達の方へ行かれた。

・帰りに夏実とのことを見られたかもしれないと戸部を探す。

・戸部君が来て、宿題のことを話し、自分より背が高くなつていることに気付く。

・帰りに銀木犀のある公園に寄り、銀木犀の下に花びらを落とした。

イラストレーター



クエスチヨナー

P 91 L 11

戸部君はなぜいつもからんでくるのか。

P 99 L 17

なぜ戸部君がボール磨きをしてたら、自分のことがひどく

小さく見えたのか。

P 93 L 8

変に長く感じられたとあるが、なぜ長く感じたのか。

P 93 L 16

なぜ熱心に下を眺めたのか。

リテラリー・ルミナリー

P 94 L 3 ~ L 4

表現が面白いと思ったから。

P 91 L 11

表現が重要だと思ったから。

P 94 L 5

表現が面白いと思ったから。

サマライザー

中学に上がってもずっと親友でいようと約束していた夏

実と、何度か小さなすれ違いや誤解が重なるうち、前まで

一緒に下校していたが、今では別々に帰るようになってし

まった。戸部君が塾の宿題を聞いてきた。しかし、それを押しつけるようにして隣のクラスへと向かった。そこで夏

実と仲直りすると決めていたが、話し合うことができず、

仲直りができなかつた。その日、下校しようとしていた。

そのとき、後ろから戸部君に声をかけられた。戸部君はわ

けのわからないことを言い、二人で顔を見合わせてふきだ

した。

カギとなるポイントやできごと

・ 中学に上がってもずっと親友でいようと約束していた夏実

と何度か小さな誤解などが重なるうち、別々に帰るようにな

つた。

・ 今日こそ夏実と仲直りしようと決めていたが、話し合えず

仲直りができなかつた。

・ 戸部君がわけのわからないことをいい、二人で顔を見合わ

せてふきだした。

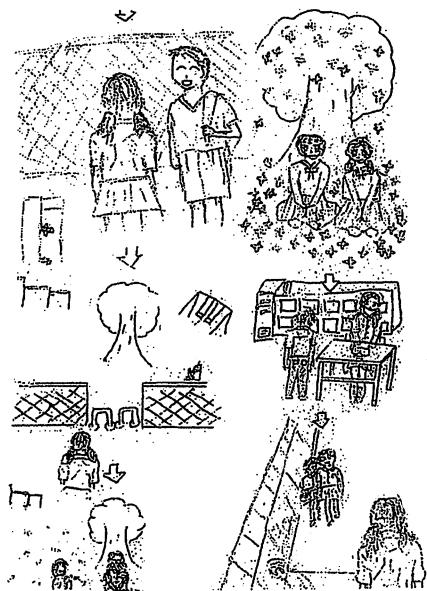
・ 学校からの帰り、少し回り道をして、銀木犀のある公園に

立ち寄った。

・ 袋の口を開けて、星形の花を土の上にはらばら落とした。

・ 戸部君が塾の宿題を聞いてきたが、押しつけて隣のクラス

へと向かった。



3時間目

役割に基づいて、班内で話し合っている様子は生き生きと
していた。班学習に慣れている生徒たちであるが、いつにも
まして活発な話し合いが行われた。いつも同じ課題を考え
て話し合うのだが、今回は自分の役割ごとに考えたことを
ワークシートに記入しているので、話し合いが活発になった
ようである。自分が発見したこと、考えたことを間違いなく
班の全員に伝えようとしているのがわかった。

机間指導していても、その楽しい雰囲気伝わってきた。
それは学習後に授業の感想を生徒たちは書いたのだが、ほほ
すべての感想に「楽しい」という言葉が入っていたのでもわ

かる。その感想をいくつか次に掲載する。

授業の感想 1

今回の授業はたくさん話し合いがあつてとても楽しかつ
たです。班の人の意見や他の班の意見を自分の意見と照ら
し合わせたりすることもできました。そしてみんなの意見
を色々聞いて別の点に気付いたりなどもでき、すごく意見
交換できてすごく楽しい授業でした。

授業の感想 2

私は、この授業でイラストレーターをやつて、他のみん
なも自分の役割をやつてきて、みんなで話し合ったりした
のは楽しかったです。また、こんな授業をしたいと思いま
した。コネクターはみんなまで調べました。

4・5時間目

班で話し合いをしながら、クラス全体でも話し合った疑問
は以下の通りである。

時 疑問点

去年の秋 P 90 L 4 なぜ「木に閉じこめられた」という表
現のしかたをしたのか。

昼休み P 91 L 11 なぜ戸部君はいつもからんでくるのか。
P 93 L 5 なぜ夏実は私を無視しているような態
度をとったのか。

P 93 L 8 変に長く感じられたとあるが、どうし

て長く感じられたのか。

p 93 L 15 なぜ私は外にいる友達を探しているふ

うに熱心に下を眺めたのか。

放課後

P 94 L 15 なぜ戸部君がボールミがきをしていた

ら、自分のことが小さく見えたのか。

P 95 L 7 輪郭が戻ってきたような気がしたとい

うのはどんな意味か。

P 96 L 11 「たぶん」というのは本当は悲しさを気

づいてほしいのか。

夕方近く P 97 L 16 なぜ花を土の上に落としてしまったの

か。

P 98 L 3 どうして私は夏実がいなくても大丈夫

と思えるようになったのか。

その後 主人公と夏実の関係は、その後どうなったのか。

単なる読書会であったならば、この全体で疑問を話し合う

活動は不要だったかもしれない。しかし、国語の授業であれば、

班の中だけで、疑問を話し合うのではなく、クラス全体で疑

問を共有し、話し合う必要性を感じて、取り入れた活動だっ

た。この活動は、当初のねらい以上の役割を果たしてくれた。

班での話し合いを経て、全体で討論する形になり、一人一人が意欲的に考え、発表したのである。議論は白熱し、時間

が足りないほどだった。学習後に書かせた授業の感想にもそれは表れた。

授業の感想3

今までにない楽しい授業でした。自分の考えや他人の考えを使つてなどをとくのがとても楽しかったです。この授業で我ながら自分の意見を主張する力が上がったと思います。

授業の感想4

この授業では自分たちのグループで一人一人が役割を持ち考える、そして、それを発表したり意見を出し合うなど、ことがありました。私が一番楽しかったことは、みんなが出した疑問をみんなで解決することでした。みんなですると、自分が分からなかったことが分かるし、人に説明する力がついてきたりするからです。これからもたくさん話し合ったり、いろんな力を身につけていきたいと思えます。

6時間目

生徒は物語の続きと物語の感想と授業の感想を書いた。物語の続きは、日頃はあまり書くことが得意ではない生徒も字数多く、意欲的に書いた。以下にその文章を掲載する。

物語のその後1

それから数日たった日、私は夏実と話した。今まで自分が思っていたことや自分がどうしたいか、今度は夏実は逃げずにちゃんと聞いてくれた。そして、夏実がおもつてい

ることも聞いた。二人は「またけんかするかもしれないけど、そのときは、また仲直りしよう。」と言った。そして、二人はお互いに「ごめん」と言っ、最後には笑った。夏実とのけんかがうそみたいに今はとても仲良しだ。それから、私には友達がほかにもできた。夏実と二人で行ったあの公園は、今ではみんなで行き、銀木犀の木の下で笑いあっている。・・・それから、またけんかもあったけど、お互いに勇気を出して謝っている。「ごめん。」

物語のその後2

主人公は一步踏み出して、成長したから、夏実がいなくても大丈夫と思った。そして、新しい自分になり、たくさんの友達をつくった。しかし、夏実は大切な友達だからこのままじゃいけない、このままケンカしていてもどうにもならないと思って仲良くなった。でも、前の自分は夏実がいないとだめだと思って友達がつくれなかった。けど、今は夏実とだけじゃなく、たくさんの友達がいる。

これらの物語の続きは、教材の本文とのつながりが自然で、しかも登場人物が成長したことが分かる書き方になっていたので感心させられた。物語の内容がしっかりと理解されなければ、書けないものが多かった。そして、次に載せるのは「星の花が降るころに」の物語の感想である。

物語の感想1

この物語は、僕たち中学生に起こりうることを物語としていたため、考えやすいことがたくさんありました。僕自身も、友達と学校に行く際、このようなことが起こります。そのときお互いに意地を張ることはなかったものの、友達について考えさせられた。この物語の大事だったと思うのは、P96の二人で顔を見合わせて吹きだしたところだと思えました。なぜなら、このとき、私が完全に自信を取り戻した象徴だと思うからです。このことがなければ、後に自信を取り戻すことがなかったと思うからです。この物語は、日常的に起こりうることで、友達のことを考えさせられるすばらしい作品だと思います。

物語の感想2

私は、この物語「星の花が降るころに」を読んで、この物語は、私たちにも起きることがある物語だなあと思いました。友達とけんかして、仲直りしたいけどできない。そんなことは自分を振り返ってみたら、こんなことあったなあと思い出すことがありました。けんか中ではないけど、廊下で友達を待っていたり、いろんなことが似ているなあと思いました。この物語の私は、たぶん一人ではなにもできなかつたと思います。戸部君だったり、おばちゃんだつたりの言葉を聞いて、自分の思いが形となって実行できた

んだと思います。最後は想像だけど、このあと、私と夏実
は仲直りしてほしいです。

物語の感想3

この物語はとても現実的で私たちが共感できることばばかりだった。友人関係が悪くすると、いじめにもつながりかねないし、今の私たちに言えることばかりだった。他人事だと思っていたら、大間違いだなと思った。自分の気持ち、感情を書くことで、読者にも流れをつかんだり、「この後どうなるのだろうか？」とワクワクさせていて場面の展開や登場人物のものの見方や考え方がどのように変化しているかとらえやすかったのが一番です。

これらの物語の感想を読むと物語自体の力もあり、この授業は生徒に共感をもたらししていることがわかった。そして、生徒たちは、より深く文章を読んでいた。「読まされる」から「自ら読む」という意識の変化が生徒たちによい影響をもたらしているものと考えられる。これらの感想は、文章を自分の生きている日常に引きつけて書かれていた。単なる物語の世界が現実に関心が生きていくということにまで及ぶような視点が感じられ、真剣に文章を読んだことがわかった。

六 仮説の検証

本論文の仮説は「読書会を意識した授業をすれば、生徒たちは意欲的に文章を読み、話し合うようになる。」であった。本年度の実践の取り組みを述べてきたが、今までまとめたように、読書会を意識した国語の授業を行うと生徒たちは楽しさを感じ、意欲的に文章を読み、活発に話し合うようになることがわかった。それは一年でも二年でも同じだった。

次に載せる文章は、一次の二年生「字のない葉書」、三次の一年生「大人になれなかった弟たちに・・・」の学習後に書いた生徒の授業の感想である。

授業の感想5

二年

班の人だけでなく、色々の人の意見が出て、その意見をもっと深く考えたりすることができて、共感できました。自分の意見や班での意見をみんなに伝えるのは難しいことだけど、この形式の授業だったらみんなと考えられて、楽しかったです。

授業の感想6

一年

今まで一つ一つの疑問にしっかりと考えたことはなく、まわりの人と話し合いをすることによって自分の意見を知っ

てもらえたり、相手がどう思っているかを知ることができ、いろいろな意見が出て、授業もスムーズに進んだと思う。分らないところは、よく話し合つて解いていくなど、協力することが必要だと感じた。何でも一人ではできなくて、班やまわりの人がいるからこそできていくんだなと思った。黒板に字がびっしり書かれていて、簡単そうに見えて、実は大変なんだなあと思った。

これらの感想を読むと「星の花が降るころに」だけではなく、「字のない葉書」でも「大人になれなかつた弟たち」に「・・・」においても、生徒たちは意欲的に読み、活発に話し合いをした様子がわかる。このように読書会を意識した授業をすれば、生徒たちは意欲的に文章を読み、話し合うようになるという仮説は検証されたと言える。

七 研究の成果と課題

(一) 成果

前項まで述べてきたように、読書会を意識した授業は、生徒たちにとって、印象深い授業だったと言えよう。次にあげるのは、三次の実践「大人になれなかつた弟たちに・・・」と一次の「字のない葉書」の物語の感想である。

物語の感想7 一年

自分たちが食べている物を残して捨てる人がたくさんいる。でも、それが戦争になったらけつしてはいけなくて、食べる物が無い。ヒロユキや主人公のようにたくさんの人が戦争で苦しみ、死んだと思う。だから、食べ物は大切にし、残さず食べようと思った。「ひもじい」とか「おちおち」とか分からないことがたくさんあったけど、図書館で授業するといろいろな本があつて、分からないことがあるとすぐ調べることができるので、よかつたです。あと、一班、二班と意見を言うと、自分の考えや他の人の考えを知ることができたらたくさん学ぶことができた。

物語の感想4 二年

私はこの作品を読んで小学生の時に修学旅行で習つたことを思い出しました。「疎開」をして妹だけでも生きてほしいという気持ちだけではないことや、離れたくないけど、もしものことがあつたら・・・などの複雑な気持ちがあることが行動などで書かれていて身近に感じることができました。妹が百日せきで三畳の布団部屋で寝かされているところを読んで、奴隷の人たちががぜや病にかかつて一つの部屋に寝かされているようなことと少し違ふけど似ているような気がしました。家族から葉書や手紙をもらったことはないけれど、お世話になつていた小学校の

先生方からもらったりして、普段は恐かったのに手紙では優しい文章だったり「がんばれ」とか「勉強してね」などの付け足しが書いてあるところが作品のお父さんからの手紙と似ていると思いました。

これらの文章には、読まされて読んだのではなく、自ら読んだ人だけが書くことのできる文章の力がある。それは、私たちに感動を与えてくれる。アクティブ・ラーニングは答申で「学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。」と定義づけられているが、この読書会を意識した国語の授業は、そのアクティブ・ラーニングの条件を満たしていることを確かめることができたことが成果である。

(二) 課題

研究の課題は、読書会を意識した授業では教材文の適不適がその成功を大きく左右するということである。本来ならば、自分の読みたい本ごとに別れてグループを作って行うのが読書会の醍醐味である。それを授業ということで同じ文章を全員が読むということになれば、よほどその文章が生徒たちにとって感動するものか、身近なものでなければならぬ。どの文章が適切か、慎重に選ぶべきであろう。

また、もう一つ課題がある。次にあげたのは一次の「字のない葉書」の授業の感想である。

授業の感想 8 二年

今回いつもと違うやり方でやったので、少し新鮮で楽しかったです。班で一人一人違う役割をするので、自分の役割に責任を持つことができるから、よい方法だと思おうし、班全員で話を深めることができました。それから、先生がプリントを用意してくださったので、書きやすかったです。一つ思ったのが、今までやっていた印象に残る一文がなくなったのは、少し悲しかったです。みんなの印象に残った文を見て「そういう感じ方もあるんだ。」と思うことがたくさんあって楽しかったので、あれはやりたいたいと思いました。

この生徒が書いたように、これまでの教師の指導法との整合性の問題がある。全く違うやり方であれば、かえってやりやすいだろう。しかし、それまでのやり方に似たような所があり、かつ今までのやり方に慣れ、親しんでいた生徒にとつて違和感を感じる場合もある。事前の説明とこのような授業にしたいという教師の思いを語ることを忘れてはならないと肝に銘じたい。

引用文献・参考文献

1 足立幸子「読んで書いて、話し合う読書の時間」『学校図書館』706号 37～39頁 2009年8月

2 足立幸子「リテラチャー・サークル—アメリカの公立学校のディスカッション・グループによる読書指導方法—」『山形大学教育実践研究』13号9～18頁 2004年

(にしむら・るり 熊本市立京陵中学校元教諭)